



旭光電機株式会社

D X 戦略

**本DX戦略は、
当社取締役会で承認された内容となります。**

センシングテクノロジーで未来を創る



社長メッセージ ～経営ビジョン、企業価値向上のためのDX戦略～

当社は神戸を本拠に創業以来73年、「感じて伝える力を、社会の力に」を掲げ、独創的なセンシング技術と制御技術を核として社会インフラの安全と利便性に貢献してまいりました。自動ドア用センサではビルフロント向け70%、東海道新幹線向け100%という高いシェアを有する一方、コロナ禍で特定事業への依存リスクが顕在化したことを契機に、「下請け依存からの脱却」と「付加価値創出」を掲げ、DXを企業変革の中核、すなわち経営戦略そのものとして位置付けました。デジタル技術の進展、エネルギー転換、人手不足といった変化が加速する中、当社は「現場力×データ」の融合を基軸に「守り」と「攻め」のDXを連動させ、持続的な企業価値向上を目指します。

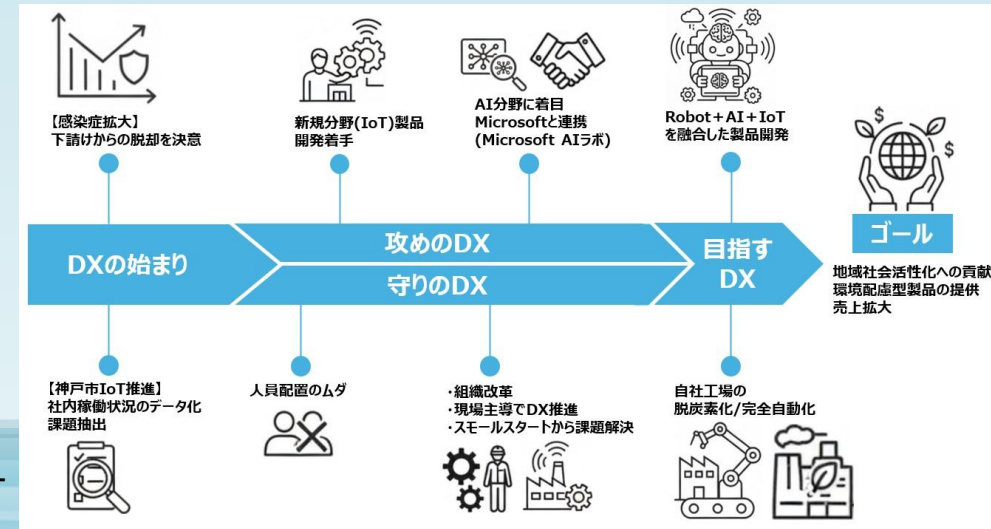
まず「守りのDX」として、工場のムダを可視化し改善する取り組みを現場起点で小さく速く推進し、搬送ロボット導入、見える化システム、チョコ停防止、呼び出しシステム等のデジタル化の施策を積み重ねることで、生産性と品質を同時に向上させてきました。これを、経営トップの迅速な意思決定と現場の自律的改善を両輪とする「DXサークル活動」と称しており、全社的な意識改革、企業文化の変革、デジタル人材育成へとつなげています。

次に「攻めのDX」として、強い技術基盤を活かしたDX商品開発とビジネスモデル変革を本格化し、SmartFitPROによるレガシー設備のクラウド化・DX化や、wattXplorerによる製造ライン／プロセス別のエネルギー・CO₂排出量の可視化など、社会課題に直結するSensor DXを自社開発で推進し、従来の“モノ”提供に“データとサービス”を統合して顧客課題の解決から収益を得る価値提供型企業へ転換しています。さらにMicrosoftをはじめとする外部パートナーとの共創により、AI利活用を軸としたエントランス領域の事業展開を加速するとともに、2025年度からは全社員に生成AI活用を指示し、「守り」も「攻め」も生成AIで省人化と効率化を実現します。

今後は、Robot×AI×IoTを融合した「RobAIoT」コンセプトの具体化と、工場の完全自動化を見据えた高度DX化を推進し、2028年度に売上100億円、自社製品売上比率35%を目標に、定量KPIに基づく進捗管理と継続的な戦略見直しを徹底します。「DXはコストではなく未来への投資」という強い意思のもと、取締役会による監督とステークホルダーとの対話を重ねながら価値創造ストーリーを磨き上げ、地域企業とも連携し、日本の製造業DXモデルを神戸から世界へ発信してまいります。



代表取締役社長
和田 貴志



経営ビジョン/戦略

経営ビジョン 「感じて伝える力を社会の力に」

経営ビジョンを実現するための戦略

・DX

DXを深化させ、更なる価値提供型企業へ変革する。

・人材育成

新卒採用に力を入れると共に社員教育に投資する。

・SDGsや脱炭素の実現に貢献する製品開発

環境配慮型のD X / G X / A I 製品を開発し国内外に提供する。



DX戦略3本の柱



攻めのDX

- ・ 培った技術力/生産力を核とし、新規分野で「モノづくり」から「コトづくり」へ価値創造の転換
- ・ 組織/チーム発足:DXソリューション部、新規事業創出チーム



守りのDX

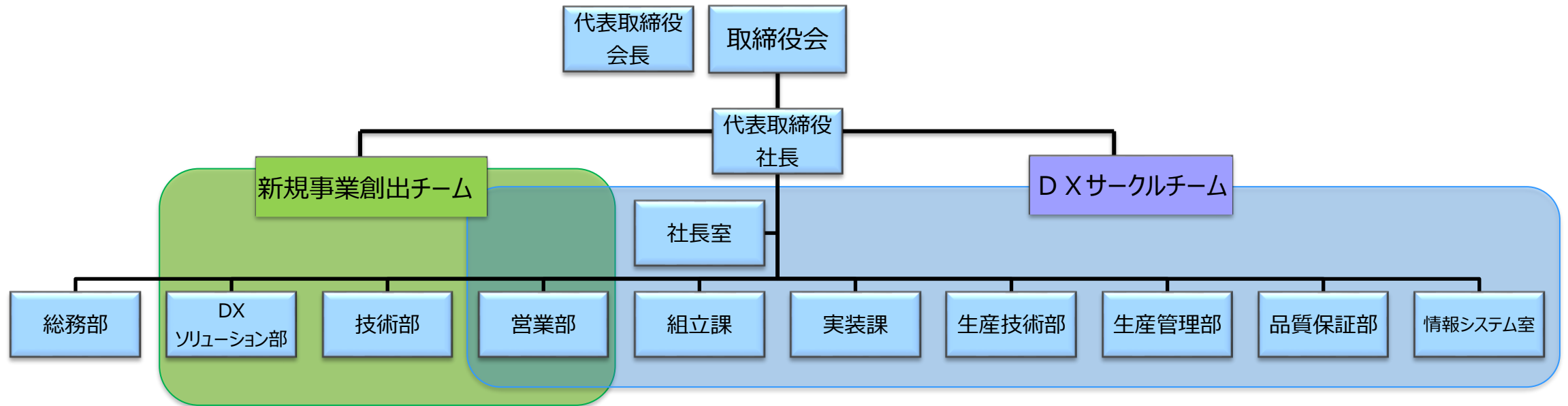
- ・ 現場の知恵をデジタルの力で強化して、社内の業務効率化と生産性向上を実現
- ・ チーム発足:DXサークルチーム



ITシステム整備・サイバーセキュリティ

- ・ 社内ITシステム整備、サイバーセキュリティ対策
- ・ 組織発足:CISO任命、情報システム室

推進体制



新規事業創出チーム

- ・社長直轄チーム
- ・中堅社員以上から選出

DXサークルチーム

- ・社長直轄チーム
- ・各課より1名以上選出/リーダー任命
- ・DXソリューション部/技術部：技術的対応
- ・総務部：その他全体フォロー

情報システム室

- ・ITシステム整備
- ・セキュリティ対策

攻めのDX

2028年売上高100億円を達成するために、長年にわたって磨いてきた「センシング・コントロール技術」を核に、社会的ニーズが高まっているDX/GX/AIといった新しい分野に注力します。新規分野に積極的に投資をして自社開発の製品やサービスで新たな価値を生み出し、高付加価値を生み出せる会社へ変革するために、次の8項目を推進します。

共創・イノベーション

- 異業種コンソーシアムに参画
ニーズ収集・関係構築
- 企業マッチングサービス活用
- 互いに補完し合う企業と共創
クラウド、オンプレ展開企業など
- Microsoft AI LabでのAI共創

産官学連携

- 旧7帝大との窓口構築
- 学内シーズ発表会に参加
- 大学教授と意見交換
- 共同で製品/技術開発
- 国プロ活用

全員参加の製品提案

社内から広く製品提案募集し、
案の中から製品化を検討

技術伝承

社内wikiを立ち上げ、ベテラン・
新人問わず知見や体験を記入
することで技術共有を促進する

人材育成

自社でのリカレント教育の機会
を提供する

通信教育斡旋・補助、セミナー
受講、社外研修、社内勉強会
開催
など

特許戦略

7件以上/年の特許出願を目標とす
る

外部リソース活用

- マーケティングコンサル
- 新卒採用コンサル
- 企業PRコンサル
- イノベーション伴走支援
- ソフト開発(フリーランス/企業)
など

生成AI活用

業務遂行に必要な社員には有料版
AIの使用を許可する

ソースコード作成、検索時間短縮、
構想の壁打ち
など
情報セキュリティ指針を遵守

守りのDX

限られたスペースと人員で高品質を維持し、売上拡大・利益確保するには、現場の「ムリ・ムダ・ムラ（3M）」を減らし、生産性を高めることが不可欠です。そのためには、社員一人ひとりが自業務に潜む3Mを見つけ出し、デジタルを活用した改善に取り組む必要があります。「DXサークル活動」と称するDX改善活動を加速させるべく、次の8項目を推進します。

適度なトップダウン 適度なボトムアップ

経営層：方針と投資枠を明示
DXサークルのリーダ任命
現場：主体的に課題抽出し、
解決策を検討
定期的にDXサークル活動会議を開催し、社長の出席を必須とする

現場ファースト

経営層はDX推進をリードしつつ、定期的に評価する。
但し、具体的な対象や改善策は現場の判断を尊重し、現場の主体性に任せる

スモールスタート

- 利便性を体感しやすい、手間/費用のかからない小さなテーマから着手し、成功体験を積み重ねる
- 効果があったものは標準化/スケールアップする
- 得た効果を数値化・分析して更なる改善活動につなげる

自社製品導入

解決手段として自社製品が使える場合は、実証実験も兼ねて自社工場、協力工場に積極的に導入する

社内推進

導入はソフトプログラミングなど含めて、外注任せにせず全て自分たちで進めることを重視する。
いかに全体最適化するかという視点を持って導入を推進する

人材育成

- 自社工場の課題に対して、新卒を含む若手・中堅が中心となって情報収集から課題解決まで行うOJTを実施する
- DXセミナー受講や他社工場見学で知見/体験を得るなど

外部リソース活用

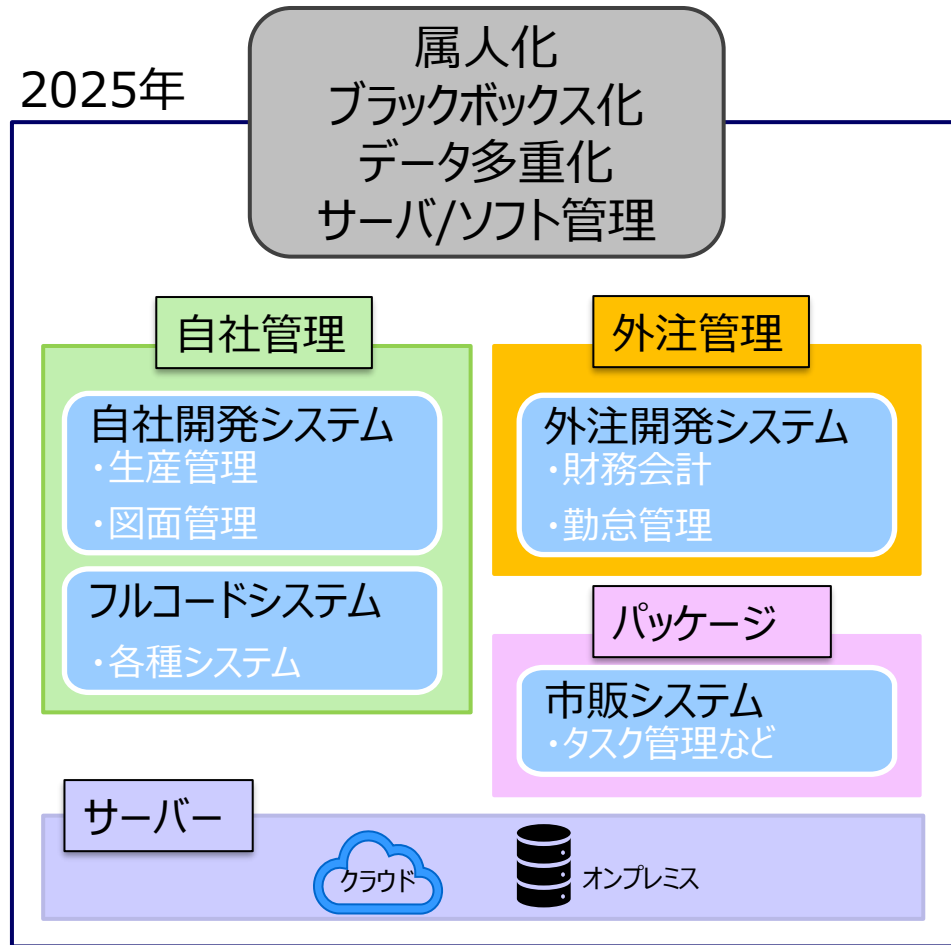
- NIROなどのDX伴走支援
- システム化方針サービスのコンサルなど

生成AI活用

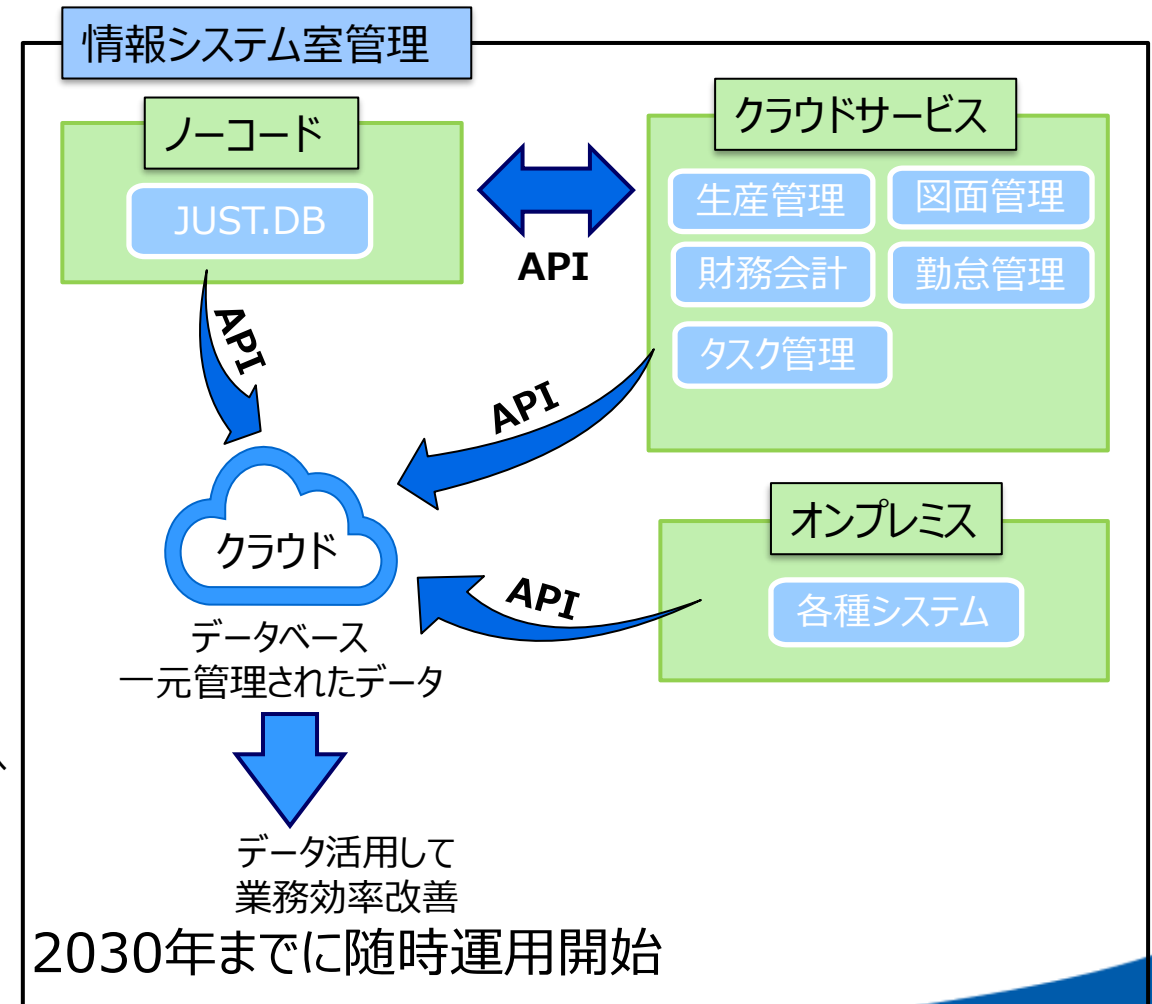
業務遂行に必要な社員には有料版AIの使用を許可する
ソースコード作成、検索時間短縮、構想の壁打ち
など
情報セキュリティ指針を遵守

ITシステム整備

全社最適を実現するため、情報システム室だけでなく各部門も当事者としてオーナーシップを持ち、レガシーシステムをノーコード型のクラウドパッケージへ段階的に移行、各システムをAPIで連携することで、情報を一元化して業務効率を高めます。



Fit & Gapから
Fit to Standardへ



サイバーセキュリティ

昨今、生成AIを含むデジタル化の進展や地政学リスク、攻撃の深刻化・巧妙化によりサイバーリスクが高まっており、生活・経済活動・安全保障に重大な影響を及ぼしています。当社もリスクマネジメント上の重要課題であると認識しており、経営者のリーダーシップのもと対策と投資を進めます。

対策範囲はサプライチェーン全体まで配慮し、平時・緊急時を含めて情報共有・開示を含むコミュニケーションを行うことを基本とします。

実施要項

- ・経営者はCISOを任命し、リソースを確保する
- ・情報セキュリティ方針の制定(2026年11月)
- ・リスクを同定し、リスクへの対策計画、体制を構築する(2026年11月)
- ・BCPの制定/演習・訓練の実施(制定：2026年/演習・訓練：2027年以降)
- ・緊急時のマニュアル作成(2026年11月)
- ・社員への定期的な教育(e-ラーニングなども活用)
- ・情報処理安全確保支援士の資格取得補助(2026年)
- ・取引先などへのサイバーセキュリティ教育を進める(2027年以降)
- ・定期的に外部審査を受け、評価をフィードバックして改善する(2027年以降)



セキュリティ対策自己宣言

2022年自己宣言済

情報発信

さまざまな媒体や活動を通じて、当社の経営ビジョン、戦略、成果をステークホルダーへ開示します。
あわせて、当社のDXの取組みを広く発信・共有し、地域社会と業界の活性化につなげてまいります。

(1) 工場見学：地域/業種問わず工場見学を受け入れ、当社のDXへの取組を共有します

2023年：7団体

2024年：10団体

2025年：12団体

(2) 講演登壇や対談、工業会に参画して情報発信を行います

☆社長実績

2023年：5件/神戸市機械金属工業会会長に就任

2024年：4件

2025年：8件

(3) メディア(新聞/雑誌/他社様のサイトなど)・展示会で情報発信を行います

2023年：メディア(6件)/展示会(5件)

2024年：メディア(10件)/展示会(8件)

2025年：メディア(12件)/展示会(7件)

(4) コーポレートサイトや公式SNS(Instagram/Xなど)で情報発信を行います

発信広報チームをつくり、新卒社員含む若手社員もメンバーに加えて、幅広い世代に向けて発信します



地域未来牽引企業



事業継続および社会貢献



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

SCIENCE
BASED
TARGETS

ロードマップ/KPI

- ※ 1 取締役会(経営会議) にて定期的にDX戦略の達成度を評価・議論し、その結果を元にDX戦略の見直しを適時行う
- ※ 2 DX戦略推進にあたり効果・貢献があった推進活動は、経営会議で厳正に評価の上、年頭に業績賞として全社員の前で表彰し賞金を授与する
- ※ 3 発明考案取扱規定に従い、特許出願、特許権取得、意匠権取得、実施・運用補償に対して奨励金を授与する

DX戦略		KPI	2024年			2025～2028	2028年	2030年
			目標	実績	差異	目標		目標
売上高		円	58億円	62.5億円	7.7%		100億円	140億円
攻めのDX	DX/GX/AIの製品売上高比率	%	3.8%	2.9%	▲0.9%		35%	46%
	共創・イノベーション	コンソーシアム参加数、パートナー数(企業、大学、ベンダーなど) 面談数、提案数、共同展示・登壇数、共同PR数、PoC数、事業化件数など	・コンソーシアム参加：2件 ・面談数：5件 ・PoC数：2件	・コンソーシアム参加：2件 ・面談数：16件 ・PoC数：2件 wattXplorerの可視化画面(SaaS)をSaaS企業と共創	・SI-Iのオープンイノベーションコース、イノベーションラウンジコースに参画 ・MicrosoftAILabに参画し、AI共創の場を獲得。 ・DX、GX関連の面談数は目標を超え、PoC数も目標を達成した。		・wattXplorerの可視化画面をSaaS/SCADA取扱い企業と共創しソリューションを市場に提供する。 ・Microsoft AI Labを活用して、AI共創製品を上市する。 ・海外展開を見据えた海外商社との提携推進する（タイ、インド、ベトナムなどのASEAN諸国）	
	産官学連携	パートナー件数 国プロ採用件数 共同開発件数	3件	3件 ・令和4～5年度GO-Tech補助事業採択 GX製品開発の着手 ・INPIT加速的伴走支援 知財活性化/組織変革の示唆 ・大学との繋がり窓口：1件	目標達成		・RoboIoTコンセプト実現に向けて、旧7帝大との窓口を創設し、IoT、AI、ロボットといった先端技術分野で産学連携を継続し、新技術・製品開発着手を行う。 ・JAXAプロジェクトなど宇宙開発事業に参画する	
	全員参加の製品提案(2025年から実施)	回/年	-	-	-		1回/年の頻度で、全社員から製品アイデアを募集し、アイデアの中から製品化に向けて開発を推進する(目標2件)	
	技術伝承	年間の社内wikiへの記載件数	40件	50件	目標達成		年間40件以上の記載を継続してナレッジを蓄積することにより、属人化を防ぎ安定性・効率を向上させる	
	人材育成	通信教育(会社補助)受講人数、外部セミナー・社内外研修、	通信教育受講人数：10人 社内外研修：30人	通信教育(会社補助)受講人数：1人 社外研修：57人 社内知財研修(内部/外部講師)：計3回	▲90% 20% 目標達成		・通信教育(会社補助)受講人数、外部セミナー・社内外研修などの機会を積極的に社員に提供し、人材育成を継続して、DX人材を育成する ・新卒社員を共創イノベーションの場などに積極的に参加させ、人脈を広げると共に広い視野を持てるよう育成する	
	特許戦略	特許出願数	7件	6件	▲1件		特許出願7件/年以上を継続し、特許・実用新案取得数を目標140件とする(132件/2025年)	
	外部リソース活用	マーケティングコンサル 新卒採用コンサル 企業PRコンサル 伴走支援 ソフト・web開発(フリーランス/企業) など	・マーケティングコンサル GX製品であるwattXplorerの市場調査・開拓に専門知識を持った外部人材を活用し、同時にOJTで社人材育成も行う ・新卒コンサル ・新卒採用5名 知見をもった外部人材を活用し、新卒のノウハウを学ぶ ・ソフト開発のフリーランスを1名採用	・google広告実施/アベルザでwattXplorerカタログダウンロード1位獲得/コンサルの人脈を活用した新規顧客と面談2件 ・新卒採用：6名 各部署から人員(若手～ベテラン)を選抜して新卒採用チームを組織し、新卒コンサルからOJTノウハウを習得 ・ソフト開発フリーランス1名採用。社内で在席活動	目標達成		・新卒採用5名以上を継続し、キャリア採用も併用することにより社内リソースを確保する ・マーケティングコンサルを活用して新市場での戦略を立案し、PCDAを回しながら自社最適な方策にブラッシュアップする ・企業PRコンサルを受けて、企業ブランド力向上し知名度をUPさせる(企業ストーリー構築、コープレートサイト刷新など) ・SNS活用コンサルを導入し、新卒社員もチームに編成してSNSでの発信を更に強化していく	
守りのDX	工場生産高生産性	対2023年度の【売上高/投入工数】改善率(%)	30.9%	50.0%	19.1%		攻め・守りのDXを深化させ、対2023年度の【売上高/投入工数】改善率60%を目指す	
	残業時間(全部署)	残業時間/売上高（時間/百万円）	2.22時間/百万円	2.18時間/百万円	▲1.8%		攻め・守りのDXを深化させ、2028年：2.1時間/百万円を目指す	
	適度なトップダウン適度なボトムアップ	DXサークル活動定例会実施回数と社長が会議に出席した回数	・DXサークル活動定例会実施回数：12回/年 ・標準化改善活動件数：2件 ・業務効率改善(削減時間) 500時間/年	・12回/年 ・2件(搬送ロボット、6軸ロボット導入) ・1,000時間/年	目標達成		・DXサークル活動定例会実施回数：12回/年を継続 ・DX投資を積極的に行い、DXを加速させる ・標準化改善活動件数：2件/年を目標とする ・点検帳票などのペーパーレス化を実現する	
	現場ファースト	現場に落とし込んだ標準化改善活動件数 業務効率改善効果(削減時間、削減金額)					・自社工場にwattXplorerを設置し、工場のデマンド監視を含め設備の電力見える化し、工場の省エネ/脱炭素化を進める。（削減は取得した中小企業SBTに準拠した形で推進）	
	スモールスタート							
	社内推進						・若手・新卒で工場の課題解決で実施するプロジェクトを発足し、OJTを通してDX力・コミュニケーション力を育成する ・セミナーや研修を積極的に受講し、自身で課題発見・解決できる人材となる ・他工場見学や展示会に積極的に参加し、知見・知識を得て、自社工場に合わせた形で導入する	
	自社製品導入	自社製品導入件数	2件	2件 ・シグナルック導入(自社工場) ・wattXplorer(協力工場)	目標達成			
	人材育成	若手・新卒が中心となって工場の課題解決で実施した回数 外部セミナー/研修受講人数、工場見学回数	・神戸市中小企業DXリーダー人材育成プログラム受講(計5回) ・他社への工場見学2回	・DXサークルメンバー3人が受講完了 ・他社工場見学：1件	目標達成 ▲1件			
	外部リソース活用	DX伴走支援 システム化方針サービスのコンサル などの活用した件数	DX伴走支援先の選定	2025年度にNIROのDX伴走支援決定	目標達成		・NIROのDX伴走支援を受けて、リール状のチップ部品残数自動化、搬送ロボット、自動倉庫を連動させて工数削減を実施する ・ITシステム構築するにあたり、システム化方針サービスのコンサルを受けて、社内課題に対しての最適なソリューションを選定し、ITシステム構築を推進する	
生成AI	生成AI活用(2025年から実施)	生成AI活用の社内勉強会開催回数/年 有料版生成AI活用者数 仕様駆動開発(SDD)の活用	-	-	-		・情報セキュリティ方針に従い、全社員が生成AIを活用できる環境を整備し、業務効率を改善する ・定期的に生成AIの勉強会を開催し生成AI活用を促進する ・有料版生成AI利用アカウント数は状況を見ながら柔軟に対応していく	
ITシステム整備	Fit & GapシステムからFit to Standardシステムへの移行	Fit & GapシステムからFit to Standardシステムへの移行割合(%)	15%	5% 経費申請などをエクセルからJustDBへの移行完了	▲10%		・2028年までに移行を80%完了させ、2030年に移行完了する ・各部署が全体最適を意識しながら、自発的に責任を持ってITシステム構築に参画している	
サイバーセキュリティ	・経営者はCISOを任命し、リソースを確保する ・情報セキュリティ方針の制定(2026年11月) ・リスクを同定し、リスクへの対策計画、体制を構築する ・BCPの制定/演習・訓練の実施 ・緊急時のマニュアル作成 ・社員への定期的な教育(e-ラーニングなども活用) ・情報処理安全確保支援士の資格取得補助 ・取引先などへのサイバーセキュリティ教育を進める ・定期的に外部審査を受け、評価をフィードバックして改善する	BCPの訓練回数/年 社員への教育回数 情報処理安全確保支援士数	・内部監査を実施 ・セキュリティリスクを特定し、防衛のための体制構築に着手する ・社員教育の実施	・内部監査を実施 ・セキュリティリスクを特定し、防衛のための体制構築に着手した ・e-ラーニングで社員教育を実施した	目標達成		・経営者はCISOを任命し、リソースを確保する ・情報セキュリティ方針を制定する(2026年) ・リスクを同定し、リスクへの対策計画、体制を構築する(2026年) ・BCPの制定/演習・訓練の実施する(制定：2026年/実施：2027年～) ・緊急時のマニュアル作成する(2026年) ・社員への定期的な教育をする(e-ラーニングなども活用) ・情報処理安全確保支援士の資格者：1名 ・取引先などへのサイバーセキュリティ教育を進める(2027年～) ・定期的に外部審査を受け、評価をフィードバックして改善する(2027～)	

参考情報

当社のDXへの取組が高く評価され、関西DXアワード2025でグランプリを受賞しました。

関西デジタル・マンス | 関西DX戦略2025 | 公益社団法人 関西経済連合会

次頁以降は、取組みプレゼン資料となります。



KANSAI
DX
AWARD

KANSAI DX AWARD 2025発表 グランプリ受賞

「組織改革と独創の技術で競争力を生む」

“攻め”と“守り”のDX

～ものづくり企業のDX成功パターン～

D X 戦略概要

経営ビジョン

「感じて伝える力を社会の力に」

二軸推進のDX戦略

守りのDX

- ☆ 社内の業務効率化と生産性向上
- ☆ 「トップの方針」×「現場の知恵」＝「DXサークル活動」
- ☆ 現場重視の「現場ファースト」

攻めのDX

- ☆ 特定顧客依存からの脱却
- ☆ コア技術をベースとした価値提供型企业へ
- ☆ DX・AIの新規分野にチャレンジ
- ☆ 顧客と二人三脚で推進する「データに基づくデジタル改革」

価値創造の転換

モノづくり

要求仕様通りに設計



コトづくり

顧客課題から解決体験を設計



DX推進のきっかけ



特定顧客への長期依存と実績の壁

- ☆ 長期に渡り特定顧客のみの受注
- ☆ 新規顧客開拓時に「実績が無い」という壁に直面
⇒ 付加価値創出の必要性を認識



感染症拡大による事業リスク顕在化

- ☆ 特定顧客との取引に暗雲
⇒ 売上が下落し、取引継続の不透明感が増大



「変わらねば終わる」という危機感

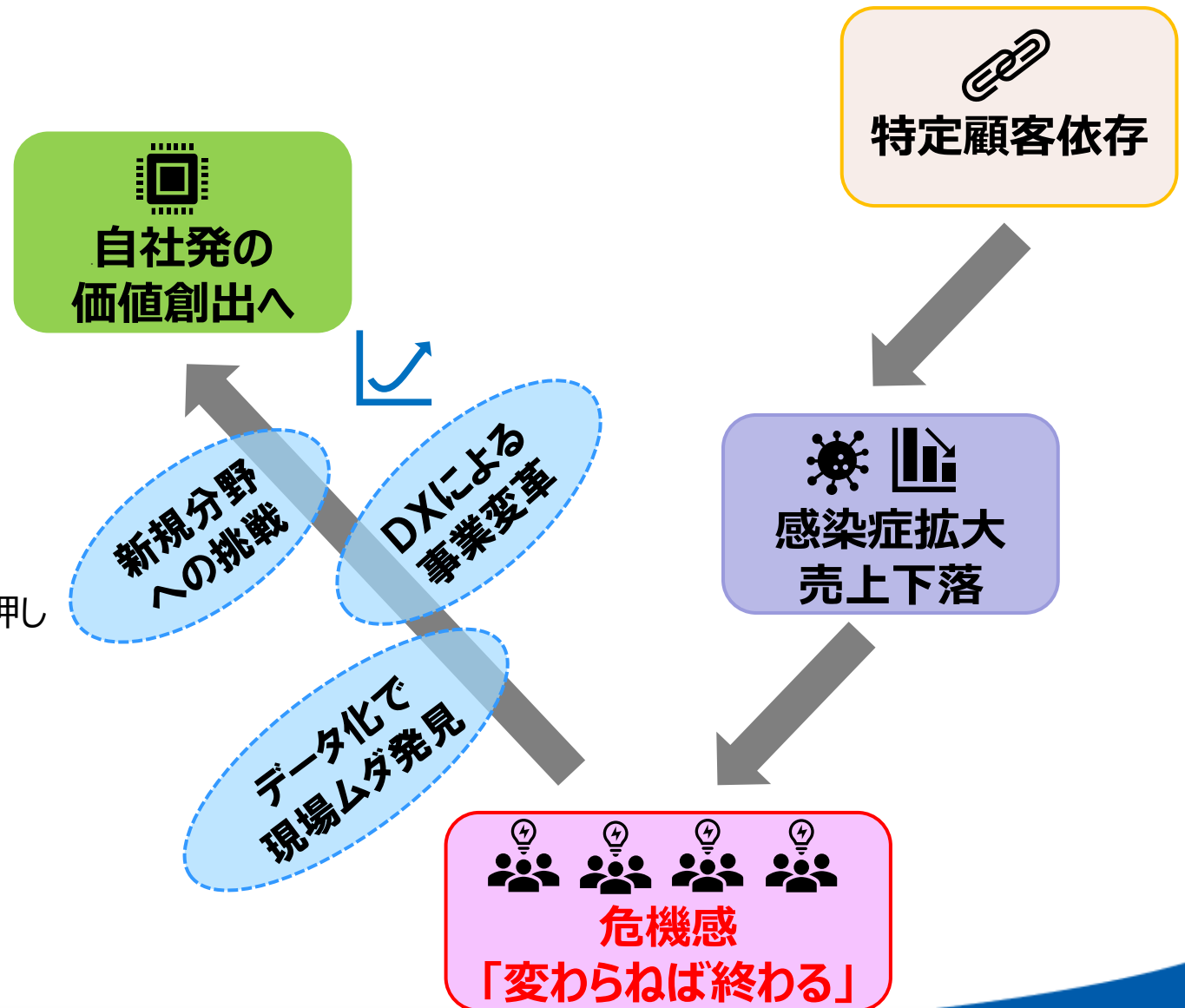
「じっとしていたら死んでしまう」

社長の強い危機意識が、**価値提供型企业**への転換を後押し



神戸市IoT推進事業で現場のムダを可視化

- ☆ 工場の稼働状況をデータ化
⇒ これまで見えなかった非効率が判明



直面した課題

課題

DXをツールでは無く、「意識・リソース・業務設計」を同時に組み替える**組織変革**と位置付ける必要があった



現場の意識改革

☆「人がやった方が早い」「部分的なDX導入は負担が増加する」などの反発
⇒理解が得られない



リソース不足

☆DX化に対する人材不足、マンネリ化したQCサークル活動
⇒ボトムアップ型改善の限界



トップダウンの限界

☆トップダウン指示では現場に具体像が描けない
⇒DXが抽象的な概念にとどまる



新規事業への慎重論

☆「いつ売り上げに繋がるのか」「その分野では無理では」
⇒社内から慎重論が



課題の乗り越え方

課題克服のアプローチ



現場ファースト×実績の可視化

- ☆現場が**利便性を体感**しやすいDX対象を選定
⇒得た効果を**数値化**して共有
⇒体験と数値の両輪で意識改革



スモールスタート

- ☆手間・費用の小さいテーマから着手
⇒**小さな成功体験**を積み重ねる
⇒効果があったものを標準化・スケールアップ



ほどよいトップダウン×ほどよいボトムアップ

- ☆経営：**方向性**と**投資枠**を明示
- ☆現場：**実装方法**を主体的に決定
- ☆月次定例の**DXサークル**でテーマ選定～決裁まで一気通貫



社内アイデア募集と成功事例共有・新組織編成

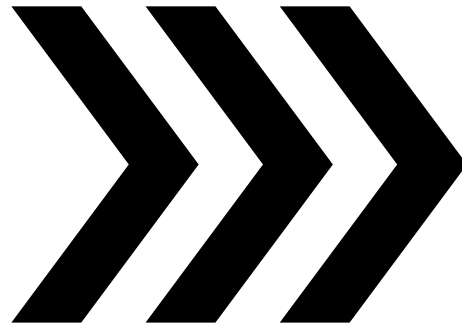
- ☆全社から製品アイデアを募集し、DXを**自分ごと化**
- ☆新規分野に対応する組織を編成
- ☆成功事例は**社内表彰**、**メディア掲載**共有で実績を見える化
⇒モチベーションを継続的に向上



攻めのDX～価値提供型企业への転換

転換を支える要因

- ✓ **トップの強いリーダーシップと明確な数値目標**
「**じっとしていたら死んでしまう**」という危機感のもと、
トップダウンの決断で売上高100億円企業へ
- ✓ **70年以上の独創的技術の応用**
日本初の自動ドア用コントローラ開発など、
培って来た技術を新価値創造に応用
- ✓ **レトロフィットIoTに着目**
既存設備に後付け可能なIoT開発に着目
顧客の導入ハードルを下げDX化を加速
- ✓ **オープンイノベーション/産学連携**
産学連携・異業種との共創を通じて
実績と信頼を積み上げる戦略的アプローチ
- ✓ **顧客と共創**
顧客の漠然とした課題を二人三脚で課題解決
更なる改善提案・開発を進める協働体制へ



独創のコア技術で「コトづくり」

新体制の構築



新商品創出チーム

- ☆顧客の生の声に深く入り込む/産学連携
- ☆さまざまなコンソーシアムに参画
- ☆全社から製品アイデアを募る体系構築
⇒コア技術をベースに独自の製品企画・開発



DXソリューション部

- ☆顧客ごとの課題解決を実現する
個別DXサービスの提供

価値創造の転換

モノづくり
要求仕様通りに設計



コトづくり
顧客課題から解決体験を設計

攻めのDX～成果

【国内外から引き合い多数】

wattXplorer
消費電力量/CO₂排出量を見える化するIoTソリューション



- 既存設備に後付け可能
- リアルタイム監視
- CO₂排出量算出
- ホットスポット特定

【カスタム品大規模受注】

Smart Fit PRO
レガシー設備をデジタル化して遠隔管理を実現するソリューション



- 多様センサー情報統合
- クラウド一元管理
- 低コスト実現
- カスタマイズ対応

MIHARIBAN
漏水みはり番
Leakage monitoring sensor
漏水センサー



Pico3
Small IoT router
(edge device)
小型IoTルーター
(エッジデバイス)



Sigfox Wireless Module
Sigfox無線モジュール
Double:
Sigfox + IEEE802.15.4g communication module
Triple:
Sigfox + IEEE802.15.4g + IEEE802.15.4k communication module



SignalLook
シグナルック
Stacked indicator
light monitor sensor
積層表示灯モニターセンサー



Mr.Comfortable
快適君
Environmental monitor
+ air conditioner control
環境モニター+エアコン制御



Smart Tracker
スマートトラッカー
GPS Tracker
GPSトラッカー



Smart ID
スマート社員証
Wireless on-board
employee ID card
無線搭載型社員証



eスケール
IoT Weight Scales
IoT重量計



守りのDX～現場主導の業務改革

DXサークル活動



月1回の定期開催

社長、各部署現場メンバーが集まり、課題とDXアイデア協議



社長直轄運営

トップが直接関与することで組織全体のDX意識向上



即時決裁

合意施策は上層部が即時決裁し、着想から導入までを迅速化

「現場ファースト」の徹底



DX導入ありきではなく、「現場の知恵をデジタルで強化」



「ほどよいトップダウン」×「ほどよいボトムアップ」

経営層：方向性/投資枠を明示

現場：実装方法を主体的に決定

現場への浸透



体験による納得と効果の可視化

実際に利便性を体験し、効果をデータとして可視化
⇒改善意欲が自然に加速

自走する改善サイクル確立



小さな成功体験の積み重ね

積み重ねによりDX化と改善が自然と回るサイクルを確立
⇒現場の主体性・デジタル活用マインドが向上
⇒組織全体のDX推進力を底上げ

守りのDX～成果



自動搬送ロボット

- ☆ 製造ラインに自動でロボットを呼び出す仕組み
- ☆ リフト/エレベータと自動連携
- ☆ ソフトは自社開発



年間1,000時間超の移動工数削減



設備停止の即時通知システム

- ☆ 設備の表示灯色を通知するIoT機器を自社開発
- 振動検知機能も持たせ「稼働・待機」を判別



迅速な対応と稼働率向上を実現



上長呼び出しシステム

- ☆ 市販のレストラン呼び出しシステムをカスタマイズ
- 上長に腕時計端末を導入
- ☆ 呼び出し履歴を蓄積・分析して事前対策を展開

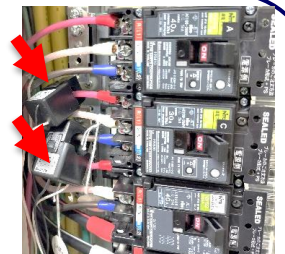


年間48万円のコスト削減



空調の省エネ/CO2排出量削減

- ☆ 自社開発のwattXplorerを空調に設置
- 消費電力が想定以上
- 外部室外機が汚れていることが判明
- 室外機清掃により省エネ実現



23%の省エネ/CO2排出量削減

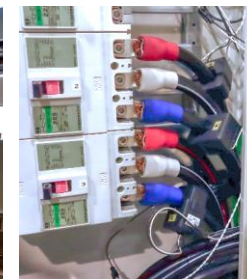


社外への波及効果



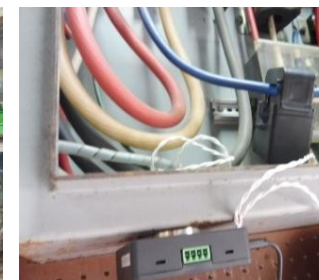
顧客工場へのwattXplorer展開

- ☆顧客工場・施設の電気動力設備にwattXplorer導入
 - ⇒CO2排出量算定・異常監視・機械寿命予測など実現
 - ⇒企業、地域社会の脱炭素推進に貢献



Microsoft AIラボでの共創

- ☆自社IoT製品展示や共同開発を通じてAI事業領域を開拓
 - ⇒地域の技術力向上に貢献



地域企業のDX推進支援

- ☆地域内外企業からの工場見学を受け入れ、当社の成功体験を共有
 - ⇒DX推進の機運醸成と活性化に貢献



目指す未来

RobAIoT (商標登録済)

Robot + AI + IoT【自立出力×データ処理×センサ入力】サービスを提供し
SDGs支援と次世代産業革命を担う世界的企業への成長を目指す



入力



処理



出力



ご覧いただき
ありがとうございました